

その衝撃は本物 映像に命を吹き込む 革新的シアターシステム、登場

背後から迫る足音。しとしとと降る雨音。頭上を飛び回る鳥のさえずり——。

映像にマッチした立体音場を実現する、ワイヤレスヘッドホン。

そこに本物の感動体験がある。

ステレオ2chや5.1chのコンテンツも7.1.4chにアップミックス可能。
専用スマートフォンアプリで簡単に個人特性の測定ができる。



ビクター ワイヤレスシアターシステム「XP-EXT1」

オープン価格。
【ヘッドホン部】
型式:密閉型、
使用ユニット:40mmダイナミック型、
質量:約330g。

【プロセッサ部】
接続端子:HDMI入力3系統、HDMI出力1系統、
デジタル音声入力1系統(光)、
アナログ音声入力1系統(RCA)
サイズ:W266×H30×D154mm、約530g

しかも、使用する人の耳の形や大きさなど個人特性を測定し、データにマッチしたサラウンドを実現させた。この『XP-EXT1』なら、仮想ではない、本物のサラウンドを実現し、リアルな感動が楽しめるのだ。

独自の開発した頭外定位音場処理技術「EXOFIELD」に、7・1・4chのマルチチャンネル音源の再生も対応させた。「Dolby Atmos®」「DTS:X®」などの音声フォーマットの音源をもつ作品は先進のマルチチャンネルスピーカーシステムで聴くようなリアルな音場が楽しめる。

映像にマッチした音声はマルチチャンネルスピーカーシステムがあれば叶えられる。それを手軽に実現するワイヤレスヘッドホンがビクターから登場した。

先達の映画館、コンサートホール、スタジアムにいれば、目にするシーンにあわせて、縦横無尽に飛交う音響や音声を感じることが出来る。映像と音響は一体になってこそ、本物の感動を得ることが出来るのだ。

4K、8Kテレビや対応プロジェクターの登場で、高精細映像は身近なものになった。ところが、その場にいるかのようなリアルさというには、物足りなさを感じてしまう。そこには音が大きく関わっているようだ。